

Financial Report

第74期事業報告書 2004.4.1 ~ 2005.3.31



 **SUBARU**

第74期事業報告書 目次

3	株主のみなさまへ
4	営業の概況及び業績の推移
6	部門別営業報告(単独)
8	特集①「修正FDR-1」
10	特集②「新商品紹介」
12	連結貸借対照表
13	連結損益計算書
14	連結キャッシュ・フロー計算書
15	活動リポート
16	単独貸借対照表
17	単独損益計算書
18	利益処分/株式事項
19	役員



PHOTO:スバル レガシィ ツーリングワゴン 2.0GT-II

株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のことと拝察申しあげます。

ここに、第74期の事業報告をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申しあげます。

当期の連結決算の業績につきましては、売上高は過去最高となったものの、利益面では営業利益、経常利益、当期純利益ともに前期に比べ減益となりました。

また単独決算につきましては、売上高は過去最高となり、営業利益と経常利益も前期を上回りましたが、当期純利益につきましては、たな卸資産評価損を計上したことなどにより減益となりました。

このような厳しい状況ではありますが、当期末の配当につきましては、株主のみなさまに対する長期的安定配当の基本方針に基づき、1株当たり14円50銭とさせていただきます。

当社では平成14年に中期5ヵ年経営計画「FDR-1」を策定し、以後3年間、その計画の実現を目指してまいりましたが、さまざまな環境の変化により実績は遺憾ながら当初目標から大きく乖離しております。このような厳しい経営環境のなかで、業績の改善を図るべく、平成17年度からの2年間を見直し、この度「修正FDR-1」として策定いたしました。

「修正FDR-1」では、業績が目標と大きく乖離した原因の本質とその背景にある当社の「弱み」と「強み」などを改めて徹底的に分析した上で、「収益力の強化」を図ることを最優先として取り組み、「存在感と魅力ある企業」の実現を目指してまいります。

今後の2年間で、持続的な成長軌道を確認するための礎を築き、株主のみなさまのご期待に沿えるよう成長、発展へ向けグループ全社をあげて最大限の努力を続けてまいります所存です。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月



代表取締役社長

竹中恭二

営業の概況及び業績の推移

[営業の概況]

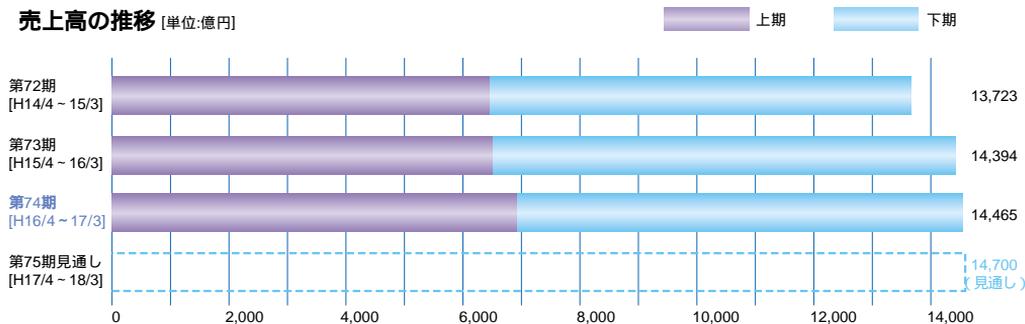
当期の連結決算の売上高は、自動車部門の国内において、登録車は減少したものの、軽自動車は一昨年末に発売した「R2」が期を通して販売に寄与したことなどにより前期を上回るとともに、海外においても「新型レガシィ」の効果により、主要地区全てにおいて売上台数が前期を上回り、1兆4,465億円と前期に比べ70億円(0.5%)の増収となりました。

利益面につきましては、各種費用の低減に努

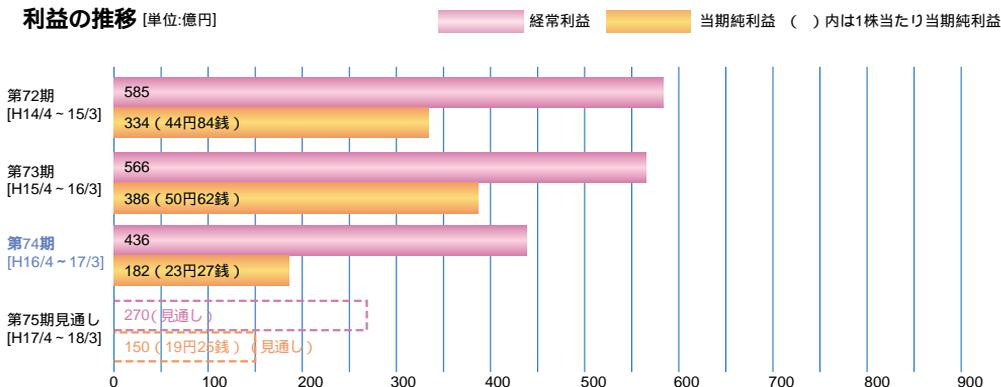
めたものの、為替レート差および車種構成差等により、営業利益は420億円と前期に比べ83億円(16.5%)の減益となり、経常利益につきましても、436億円と前期に比べ130億円(23.0%)の減益となりました。また当期純利益につきましても航空機関連などの特定プロジェクト事業の大幅な遅延等による、たな卸資産評価損の計上や投資有価証券売却益の減少等により、182億円と前期に比べ204億円(52.8%)の減益となりました。

[連結の業績及び推移]

売上高の推移 [単位:億円]



利益の推移 [単位:億円]



単独決算の売上高は、自動車部門において、国内では登録車の出荷が減少したものの、軽自動車が前期を上回るとともに、海外につきましても「新型レガシィ」の出荷台数の増加が寄与し、9,495億円と前期に比べ126億円(1.3%)の増収となりました。

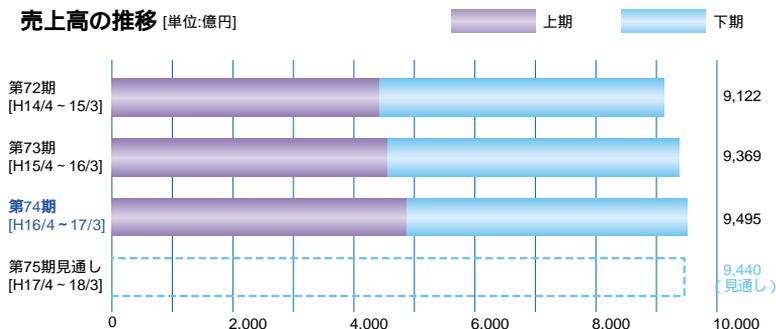
利益面につきましては、為替レート差等の減益要因はあったものの、原価低減をはじめとした各種費用の低減などにより営業利益は354億円

と前期に比べ53億円(17.6%)の増益となり、経常利益につきましても、313億円と前期に比べ28億円(9.9%)の増益となりました。

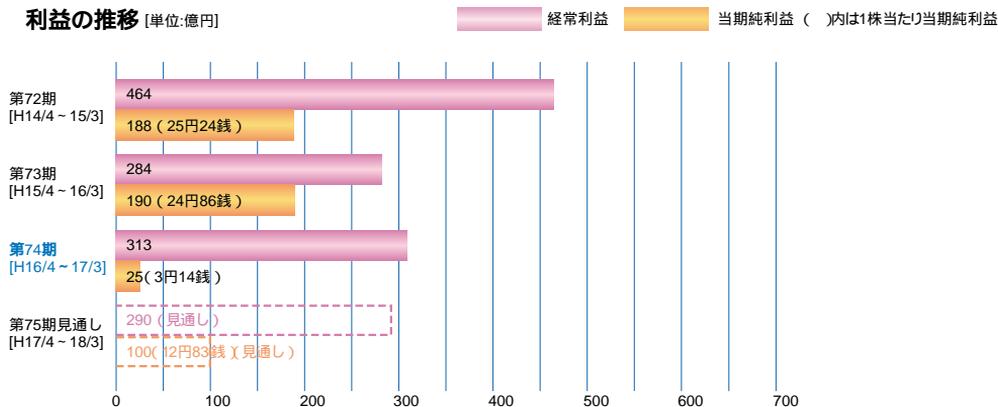
しかし、当期純利益につきましては、たな卸資産評価損の計上や国内販売会社における株式評価の見直しに伴う投資有価証券等評価損の計上等により、25億円と前期に比べ165億円(86.8%)の減益となりました。

[単独の業績及び推移]

売上高の推移 [単位:億円]



利益の推移 [単位:億円]



部門別営業報告(単独)

[スバル・オートモーティブビジネス]
世界各地での高評価が販売に寄与し、国内、海外ともに売上台数が増加。

スバルの登録車は、「インプレッサ」の販売が昨年9月にWRX FIA世界ラリー選手権「ラリー・ジャパン2004」での優勝も追い風となり、好調に推移しましたが、昨年度フルモデルチェンジの効果が大きかった主力車種「レガシィ」が減少し、登録台数全体では111千台と前期に比べ6千台(5.3%)の減少となりました。

一方、軽自動車につきましては、「R2」が「2005年次JNCカー・オブ・ザ・イヤー特別賞ベスト軽乗用車」や「2004-2005日本カー・オブ・ザ・イヤー10ベストカー」を受賞し、その商品力を高く評価されるとともに、販売台数では今年1月に発売した「R1」と「プレオ」を含めた軽乗用車系で前期を大幅に上回りました。また「サンバー」につきましても引き続き好調に推移し、届出台数全体でも163千台と前期に比べ20千台(13.6%)の増加となりました。

以上の結果、国内における販売台数の合計は274千台と前期に比べ13千台(5.1%)上回り、売上(出荷)台数につきましても273千台と前期に比べ11千台(4.1%)の増加となりました。

海外の平成16年暦年の現地販売につきましては、米国では昨年6月から本格的な販売を開始した「新型レガシィ」が寄与し、187千台と昨年に引き続き最高記録を塗り替えました。

欧州につきましては、「新型レガシィ」が高い評価を維持しているなかで、ロシアを始めとした新興市場での販売も伸長し、57千台となりました。

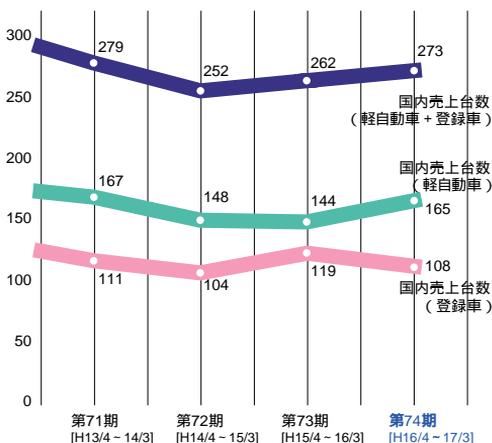
さらに豪州につきましても、「新型レガシィ」が順調に販売台数を伸ばすとともに、「フォレスター」や「インプレッサ」も堅調に推移し、過去最高を記録した前年をさらに上回る34千台の新記録を達成することができました。また、「新型レガシィ」および「インプレッサ」は、豪州自動車協会などが主催した「2004ベストカー賞」において、それぞれ「ベストミッドサイズカー」「ベストスポーツカー」を獲得し、性能面でも高い評価を得ることができました。

以上、海外全体の現地販売は313千台と前年に比べ17千台(5.9%)の増加となりました。

これらの状況のなかで、平成16年度の完成車輸出台数は、「フォレスター」は前期を下回りましたが、全世界的に好評な「新型レガシィ」の販売が前期を上回ったことに加え、ゼネラルモーターズ(GM)傘下にあるサブオートモービルからの受託生産もあり、

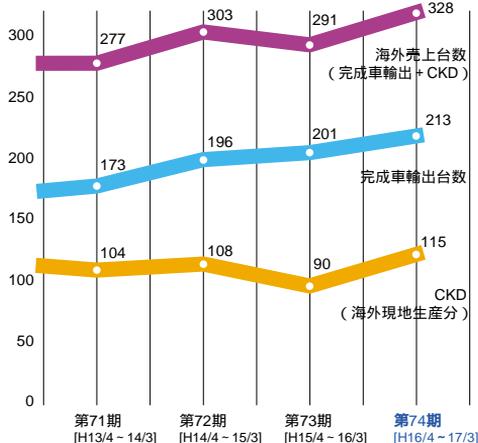
売上台数の推移(国内)

[単位:千台]



売上台数の推移(海外)

[単位:千台]



213千台と前期に比べ12千台(5.8%)の増加となりました。

またCKD(海外現地生産分)につきましても、北米向け「新型レガシィ」が寄与し、115千台と前期に比べ25千台(27.9%)の増加となりました。

これらの結果、完成車およびCKDの合計は328千台と前期に比べ37千台(12.7%)の増加となり、過去最高の売上(出荷)台数となりました。

以上の結果、国内と海外(CKD含む)を合わせた平成16年度の売上(出荷)台数は601千台と前期を48千台(8.6%)上回り、スバル・オートモーティブビジネス全体の売上高は8,447億円と前期に比べ1.1%の増収となりました。

[航空宇宙カンパニー]

防・民ともに売上高が増加。

防衛庁向け製品では多用途ヘリコプター「UH-1J」や無人標的機「ターゲットドローン」などの納入機数が減少しましたが、次期固定翼哨戒機・輸送機(PX/CX)の売上増加が寄与し、前期を上回りました。また、民間向け製品でもボーイング社向け製品の納入機数の減少や為替の影響があったものの、「エアバスA380」垂直尾翼部品の売上開始や宇宙航空研究

開発機構に定点滞空試験機を納入したことなどにより、前期を上回りました。これらの結果、全体の売上高は594億円と前期に比べ4.7%の増収となりました。

[産業機器カンパニー]

国内、海外ともに売上高が大幅増。

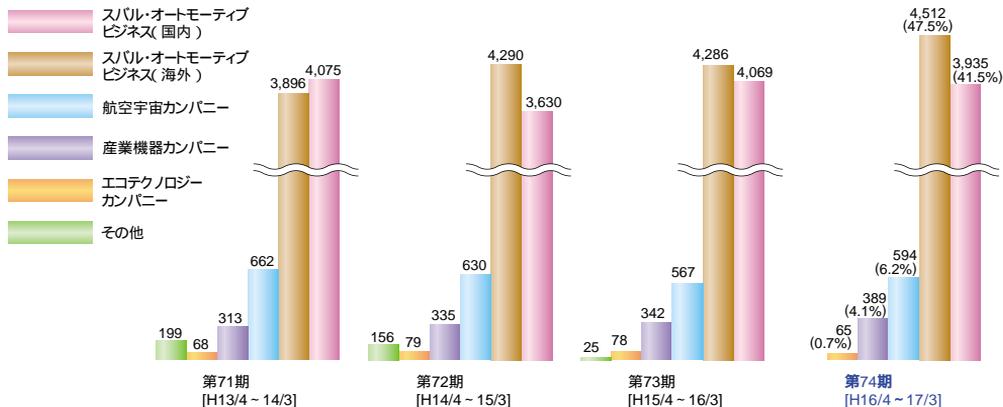
国内ではポンプ搭載用エンジン等の販売台数は減少したものの、新型発電機の販売台数の増加により売上高は前期を上回りました。また、海外では米国向けレジャービークル用エンジンの販売も引き続き好調に推移したことに加え、大手取引先を絞った販売戦略が効果を上げ、米国向け産業機械搭載用エンジンの販売台数が増加したことなどにより売上高は前期を大幅に上回りました。これらの結果、全体の売上高は389億円と前期に比べ13.7%の増収となりました。

[エコテクノロジーカンパニー]

塵芥収集車「フジマイティ」の販売台数が減少。

昨年度の首都圏におけるディーゼル車排出ガス規制に伴う特需の反動により、塵芥収集車「フジマイティ」の販売台数が減少し、売上高は65億円と前期に比べ17.4%の減収となりました。

部門別売上高の推移 [単位:億円] ()内の数字は、第74期の部門別売上高構成比です。



さらなる収益力強化のために 修正FDR-1 発表

当社では、平成14年に「プレミアムブランドを持つグローバルプレイヤーを目指す」ことをビジョンとした中期経営計画「Fuji Dynamic Revolution-1(FDR-1)」を策定し、計画実現を目指してまいりましたが、厳しい経営環境に対応するべく、平成17年度からの2年間を見直し、「修正FDR-1」として策定いたしました。ここでは、その概要をご説明します。

経営ビジョン

存在感と魅力ある企業
自動車をコアとした高収益企業体質の構築

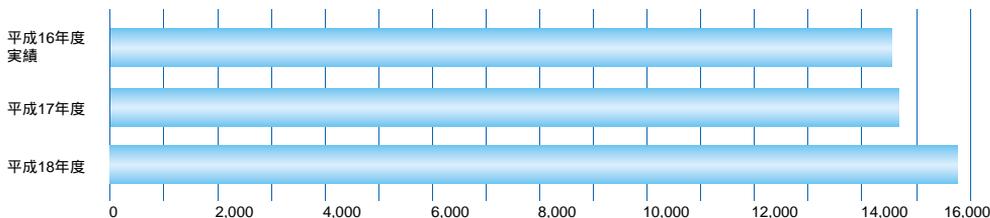
営業利益率8%以上、ROA 10%以上
を達し得る経営基盤の構築を目指す。

修正FDR-1 今後2年間のメインテーマ

収益力強化への変革

修正FDR-1 収益計画

売上高目標 [単位:億円]



修正FDR-1 収益力強化への具体策

1 総合原価低減の緊急促進

研究開発力、生産体制の強化、また品質のより一層の向上と併せ、商品企画から開発・販売等全ての領域において、徹底した原価低減活動を国内外ともに進めます。

2 商品企画の再構築

お客様の立場に立ち、スバルらしさを追求した商品開発を徹底するとともに、開発のスピードアップと効率化を図ることにより、市場のニーズに合わせた商品をタイムリーに投入することに取り組みます。

3 販売体制の再構築

お客様第一の販売・サービス活動を徹底することと併せ、国内においてはセールス品質の向上を図るとともに、ITを活用した特約店業務の標準化、間接部門の合理化を進めます。

また海外においても、米国ではディーラー体制の強化と地域戦略の確実な実行を進め、欧州・アジア等の地域では販売網強化を中心に、中国や新興市場における足固めも推進します。

4 資産効率の向上

資産効率を重視し、事業採算を明確化することで選択と集中を徹底し、グループ全体の収益力の向上と経営の効率化を進めます。

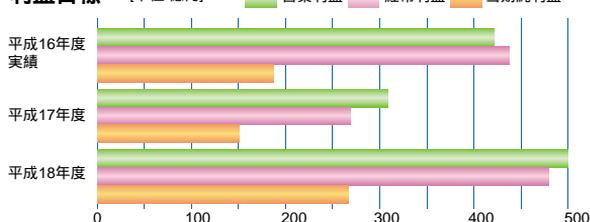
5 企業構造のスリム化

人員配置の見直しを行うことにより、経営資源を収益部門に集中させるとともに、間接人員・関連会社の合理化等、迅速な課題遂行が行える組織・体制を整備します。

利益目標

[単位:億円]

営業利益 経常利益 当期純利益



修正FDR-1収益修正計画につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断した見通しであり、世界経済の情勢や市場の動向、為替相場の変動などのリスクや不確実性を含んでおります。

新商品紹介

スバル・オートモーティブビジネスは、当社の中核ビジネスとして、市場のニーズに対応した品質の高い商品を提供しています。このたび、北米市場において7人乗りのフラッグシップモデル「B9トライベッカ」を発表し、販売を開始しました。また国内でも新しいコンセプトの軽自動車「R1」の追加や、「フォレスター」、「インプレッサ」のビッグマイナーチェンジを行いました。ここでは、さらに魅力の増したスバルの新商品をご紹介します。

SUBARU B9 TRIBECA



本年1月9日～23日に行われた「2005年北米国際自動車ショー（通称：デトロイトショー）」においてスバル初の7人乗りクロスオーバービークル「スバル B9トライベッカ」を披露しました。北米市場のフラッグシップモデルとしてこの6月より本格的な販売を開始します。



次世代クロスオーバー

スバルは1995年に発表した「アウトバック」において、乗用車の乗り心地とSUVの走破性を合わせ持つ「クロスオーバー」を提案し、世界の自動車市場に影響を与えてきました。B9トライベッカは、そのコンセプトをさらに進化させた「プログレッシブ・クロスオーバー」として世に送り出すモデルです。

7人乗りのパッケージング



B9トライベッカは、スバルのラインナップで最大サイズのモデルです。大人7人が乗車可能な室内空間を確保するとともに多彩なシートアレンジやユーティリティにより、様々なシーンにおいて優れた使い勝手を提供します。

スバルらしさを極める



B9トライベッカは、スバルのコアテクノロジーである、3リッター水平対向6気筒エンジンを採用し、左右対称レイアウトのシンメトリカルAWDを搭載。スポーツセダンのような俊敏で安定した走りと同時に、乗り心地の良さも実現しています。

SUBARU R1



**スバル360から受け継がれる
クルマづくりのDNAを継承した
SUBARU・軽の象徴。**

R1は、これまでの軽自動車の概念を超えた、スタイリッシュでクオリティの高いデザインと、小型車と同等以上の走りや安全性を実現した、スバルの考える新しい軽自動車です。

あえて軽自動車枠を使い切らないサイズの中に、大人二人のための十分な空間を確保。多彩なシートアレンジで自由度の高い使い方ができます。

FORESTER



**モダンで洗練されたクロスオー
バースタイルの新潮流の中で、
カテゴリーNo.1を目指します。**

フロントマスクは、ダイナミックでありながら、洗練されたデザインにリニューアルしました。

新開発の2.0リッターのNAエンジンを搭載し、走行性能と実用燃費の向上を図っています。

好評のL.L.Bean EDITIONやSTI Version、クロススポーツを順次投入し、市場の中での存在感をキープし続ける戦略で販売台数の確保を図っています。

IMPREZA



**WRCというスポーツマインドを
活用しつつ、活発なスポーティ・
コンパクト市場に訴求します。**

フロントマスクの変更により、より精悍でスポーティな顔つきになりました。

上質でスポーティなコンパクトカーが市場を牽引している状況において、WRCや耐久レースといったスポーツシーンで活躍する「アクティブで質感の高いクルマ」として、本物志向を持つ20～30代の男女を中心とした訴求を行います。

連結貸借対照表

単位：百万円

科目	第74期 平成17年3月31日現在	第73期 平成16年3月31日現在
資産の部		
流動資産	649,070	654,879
現金及び預金	40,742	46,684
受取手形及び売掛金	116,278	122,724
有価証券	87,003	113,490
たな卸資産	175,087	179,338
短期貸付金	128,202	101,871
繰延税金資産	34,859	34,149
その他	68,158	57,284
貸倒引当金	1,259	661
固定資産	708,389	694,848
(有形固定資産)	(543,726)	(509,743)
建物及び構築物	129,376	117,446
機械装置及び運搬具	183,946	161,950
土地	170,809	166,518
建設仮勘定	12,891	20,935
その他	46,704	42,894
(無形固定資産)	(43,211)	(40,453)
ソフトウェア	17,989	
その他	25,222	
(投資その他の資産)	(121,452)	(144,652)
投資有価証券	71,114	57,045
長期貸付金	5,976	4,918
繰延税金資産	24,481	29,707
その他	22,632	57,938
投資評価引当金	41	280
貸倒引当金	2,710	4,676
資産合計	1,357,459	1,349,727

科目	第74期 平成17年3月31日現在	第73期 平成16年3月31日現在
負債の部		
流動負債	610,311	603,231
支払手形及び買掛金	190,790	193,186
短期借入金	220,295	227,917
コマーシャルペーパー	22,000	10,000
一年内償還社債	10,300	10,000
未払法人税等	8,872	5,092
未払費用	74,326	69,784
賞与引当金	15,277	17,165
製品保証引当金	20,490	26,959
その他	47,961	43,128
固定負債	272,532	289,469
社債	100,500	90,800
長期借入金	59,095	40,279
土地再評価に係る繰延税金負債	478	478
退職給付引当金	59,002	61,654
役員退職慰労引当金	1,150	1,228
連結調整勘定	12,352	44,027
その他	39,955	51,003
負債合計	882,843	892,700
少数株主持分		
少数株主持分	3,467	3,319
資本の部		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,071	160,107
利益剰余金	178,022	165,192
土地再評価差額金	421	421
その他有価証券評価差額金		10,291
株式等評価差額金	16,945	
為替換算調整勘定	35,874	33,300
自己株式	2,231	2,798
資本合計	471,149	453,708
負債、少数株主持分及び資本合計	1,357,459	1,349,727

[注]百万円未満四捨五入

連結損益計算書

単位：百万円

科目	第74期	第73期
	自平成16年4月1日 至平成17年3月31日	自平成15年4月1日 至平成16年3月31日
経常損益の部		
営業損益の部		
売上高	1,446,491	1,439,451
売上原価	1,107,718	1,085,716
販売費及び一般管理費	296,756	303,411
営業利益	42,017	50,324
営業外損益の部		
営業外収益	14,096	17,943
受取利息及び配当金	2,393	2,081
連結調整勘定償却額	6,868	4,912
その他	4,835	10,950
営業外費用	12,541	11,653
支払利息	2,437	2,416
デリバティブ評価損	3,132	
持分法による投資損失	378	
その他	6,594	9,237
経常利益	43,572	56,614
特別損益の部		
特別利益	2,261	8,353
固定資産売却益	1,417	2,600
投資有価証券等売却益	541	4,564
前期損益修正益		1,049
その他	303	140
特別損失	24,767	8,701
固定資産売却・除却損	6,169	5,689
投資有価証券等売却損		411
投資有価証券等評価損		221
退職給付費用		1,268
たな卸資産評価損	8,122	
取引先補償損失	4,174	
事業撤退損失	3,467	
その他	2,835	1,112
税金等調整前当期純利益	21,066	56,266
法人税、住民税及び事業税	5,913	12,030
法人税等調整額	3,264	5,603
少数株主損益	(減算) 179	(加算) 16
当期純利益	18,238	38,649

[注]百万円未満四捨五入

連結キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、1,317億円と前期に比べ77億円減少しました。

当連結会計年度の前期に対するキャッシュ・フローの増減状況と要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の営業活動による資金の増加は、税金等調整前当期純利益211億円と減価償却費710億円から連結調整勘定償却額317億円を控除したものを主たる源泉として、たな卸資産の増加額113億円等の支出により573億円となり、前期に比べ424億円の資金の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の投資活動により支出した資金は、固定資産の取得による支出が前期に比べ126億円多く、同じく売却による収入が22億円少なかったことなどによる減少要因がありましたが、有価証券の取得が171億円少なかったことや同じく売却が72億円多かったことおよび拘束性預金の払戻しによる収入294億円等の増加要因により898億円となり、前期に比べ374億円の資金の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の財務活動は、長期借入金による収入が前期に比べ446億円多く、コマーシャルペーパーの純増加額が110億円多かったこと、短期借入金の純増減額が228億円少なかったこと等により、262億円の調達と前期に比べ239億円の資金の増加となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位：百万円

科目	第74期	第73期
	自 平成16年4月 1日 至 平成17年3月31日	自 平成15年4月 1日 至 平成16年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	57,327	99,774
投資活動によるキャッシュ・フロー	89,761	127,140
財務活動によるキャッシュ・フロー	26,199	2,335
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,481	5,512
現金及び現金同等物の減少額	7,716	30,543
現金及び現金同等物期首残高	139,401	169,944
現金及び現金同等物期末残高	131,685	139,401

[注]百万円未満四捨五入

活動レポート

スバルのロボットが愛・地球博で活躍。

3月25日より愛知県で開催されている「2005年日本国際博覧会 / 愛・地球博」において、スバルは屋外清掃ロボット「スバルロボハイター RS1」と、ゴミ箱搬送ロボット「スバルロボハイター T1」を出展しています。これらのロボットは長久手会場の『ロボットステーション』に常時展示されている他、実際に会場内の清掃作業を深夜に行っています。すでに実用化されている屋内用清掃ロボットに続き、より厳しい作業環境にある屋外にも対応する清掃ロボットの商品化に向け、今後も開発を推進していきます。



愛・地球博に出展している
「スバルロボハイター RS1」

次世代航空機の開発・量産正式契約を
ボーイング社と締結。

本年5月、ボーイング社と次世代航空機「787ドリームライナー」の開発・量産事業への参画に関し、正式契約を締結しました。

当社は中央翼の設計・製造などを担当し、平成20年の運行開始に向け各種作業を開始しております。



ボーイング社との契約締結式の模様

株主様向け工場見学会を実施。

本年3月5日に株主様向けの工場見学会を、群馬製作所矢島工場と同工場内にあるスバルビジターセンターにて実施いたしました。

昨年に引き続き2回目となった今回は、遠くは北海道、兵庫県など各地から100名の方にご参加いただき、当社の企業状況や生産活動を理解していただくとともに、工場見学会後の質疑応答では貴重なご意見を多数いただきました。



株主様向け工場見学会の様子

単独貸借対照表

単位：百万円

科目	第74期	第73期
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
資産の部		
流動資産	380,755	408,744
現金及び預金	17,193	25,336
受取手形	2,048	2,585
売掛金	122,119	120,090
有価証券	54,556	75,850
製品	27,585	31,774
原材料	6,668	4,988
仕掛品	49,783	51,140
貯蔵品	1,294	1,580
前渡金	23,335	15,305
前払費用	1,812	2,248
繰延税金資産	17,254	16,045
未収入金	20,891	24,658
短期貸付金	34,977	31,437
その他	1,282	5,746
貸倒引当金	42	44
固定資産	557,248	538,380
(有形固定資産)	(237,626)	(241,788)
建物	51,644	51,548
構築物	6,778	6,920
機械装置	81,811	88,002
航空機	71	107
車両運搬具	1,325	1,465
工具器具備品	10,010	11,179
土地	82,209	80,274
建設仮勘定	3,778	2,289
(無形固定資産)	(22,797)	(20,117)
工業所有権	110	11
ソフトウェア	17,567	13,219
その他	5,120	6,886
(投資その他の資産)	(296,825)	(276,474)
投資有価証券	54,545	44,143
子会社株式	145,585	136,673
出資金	27	32
子会社出資金	453	453
長期貸付金	66,478	60,279
長期前払費用	2,825	3,102
繰延税金資産	29,073	31,985
その他	8,088	7,828
投資評価引当金	4,597	280
貸倒引当金	5,652	7,746
資産合計	938,003	947,124

科目	第74期	第73期
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
負債の部		
流動負債	280,405	304,489
支払手形	3,439	3,762
買掛金	167,674	172,465
短期借入金	16,040	25,040
一年内返済長期借入金	3,715	7,018
一年内償還社債	10,000	10,000
未払金	17,551	14,716
未払費用	34,204	41,196
未払法人税等		447
前受金	4,758	1,885
預り金	1,202	699
前受収益	165	132
賞与引当金	9,798	11,417
製品保証引当金	8,140	9,180
設備関係支払手形	718	2,075
その他	3,001	4,449
固定負債	150,507	138,068
社債	100,000	90,000
長期借入金	10,565	4,794
長期未払金	515	1,675
預り保証金	1,466	1,404
退職給付引当金	37,781	40,067
役員退職慰労引当金	179	127
その他	1	
負債合計	430,912	442,557
資本の部		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,071	160,070
資本準備金	160,071	160,070
利益剰余金	179,168	183,892
利益準備金	7,901	7,901
任意積立金	86,022	85,335
配当準備積立金		6,000
退職手当積立金		1,000
土地圧縮積立金	687	
別途積立金	85,335	78,335
当期末処分利益	85,245	90,656
その他有価証券評価差額金	16,262	9,579
自己株式	2,205	2,771
資本合計	507,091	504,566
負債及び資本合計	938,003	947,124

[注] 第74期より百万円未満を四捨五入して表示しておりますが、第73期は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独損益計算書

単位：百万円

科目	第74期	第73期
	自平成16年4月1日 至平成17年3月31日	自平成15年4月1日 至平成16年3月31日
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益		
売上高	949,511	936,911
営業費用	914,075	906,767
売上原価	761,093	750,315
販売費及び一般管理費	152,982	156,452
営業利益	35,436	30,143
営業外損益の部		
営業外収益	7,740	6,804
受取利息及び配当金	2,270	1,863
その他	5,470	4,940
営業外費用	11,872	8,451
支払利息	1,610	1,601
デリバティブ評価損	3,132	-
その他	7,130	6,850
経常利益	31,304	28,496
特別損益の部		
特別利益	957	6,687
固定資産売却益	485	1,479
投資有価証券等売却益	220	4,036
貸倒引当金戻入額	2	75
債務保証損失引当金戻入額	-	47
投資評価引当金戻入額	250	-
前期損益修正益	-	1,049
特別損失	29,540	5,832
固定資産売却・除却損	2,248	4,968
投資有価証券等売却損	4	390
投資有価証券等評価損	10,425	193
投資評価引当金繰入額	4,567	280
たな卸資産評価損	8,122	-
取引先補償損失	4,174	-
税引前当期純利益	2,721	29,351
法人税、住民税及び事業税	3,062	8,691
法人税等調整額	2,844	1,646
当期純利益	2,503	19,012
前期繰越利益	86,365	75,148
自己株式処分差損	115	-
中間配当額	3,508	3,504
当期末処分利益	85,245	90,656

[注] 第74期より百万円未満を四捨五入して表示しておりますが、第73期は百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 1 増収増益

国内・海外ともに売上台数が前期を上回り、売上高は126億円の増収となりました。利益面でも為替レート差等の減収要因をコスト低減等でカバーし、営業利益は53億円の増益、経常利益でも28億円の増益となりました。

POINT 2 特別損失

子会社株式会社等の実質価額の回復可能性を考慮したことにより、投資有価証券等評価損104億円を計上しております。また、航空機関連などの特定プロジェクト事業での大幅な遅延発生による、将来リスクの顕在化に備え、たな卸資産評価損81億円、取引先補償損失42億円を計上しております。

[貸借対照表及び損益計算書に関する注記]

- 有形固定資産減価償却累計額……………444,359百万円
- 担保に供している資産 有形固定資産……………39,688百万円
- 子会社に対する短期金銭債権……………116,446百万円
子会社に対する長期金銭債権……………35,164百万円
子会社に対する売上高……………571,661百万円
子会社よりの仕入……………84,028百万円
子会社との営業取引以外の取引高……………5,864百万円
- 保証債務……………197,566百万円

[単位: 円]

平成17年3月31日現在

摘要	金額
当期末処分利益	85,245,151,675
合計	85,245,151,675

これを下記のとおり処分いたします。

株主配当金 (1株につき4.5円)	3,507,767,829
役員賞与金 (うち監査役分)	54,800,000 (7,000,000)
次期繰越利益	81,682,583,846

[注] 平成16年度配当は、中間配当1株当たり4.5円を含め1株当たり9円になります。

株式の総数

発行する株式の総数	1,500,000,000株
発行済株式の総数	782,865,873株
[注] 当期中の増加	0株

株主数

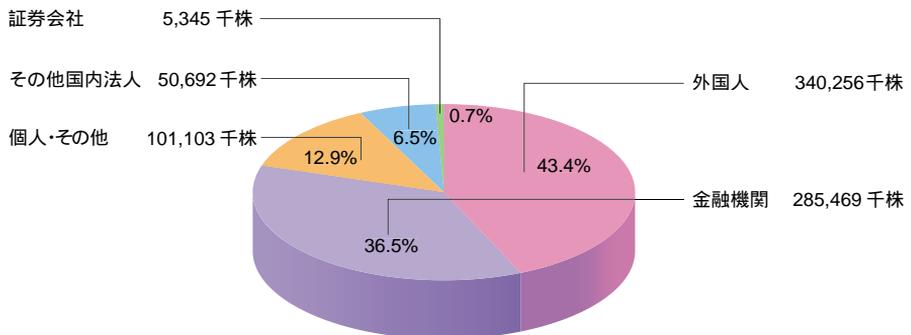
46,007名

大株主

株主名	株式数(千株)
ゼネラル モーターズ オブ カナダ リミテッド	157,262
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	58,492
ザチエスマンハットンバンクエヌエイロンドン	47,564
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	45,451
株式会社みずほコーポレート銀行	24,361
デボジタリー ノミーズインコーポレーション	19,782
日本生命保険相互会社	16,084
スズキ株式会社	13,690
株式会社損害保険ジャパン	11,716
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー)	10,910
サブアカウントアメリカンクライアント	

株式の分布状況

合計782,865千株



役員

平成17年3月31日現在

代表取締役社長	竹中恭二	執行役員	工藤一郎
代表取締役副社長	和田英生	執行役員	デイビッド J.マリック
代表取締役副社長	鈴木 浩	執行役員	杉本 清
取締役兼専務執行役員	荒澤紘一	執行役員	星 恒憲
取締役兼専務執行役員	土屋孝夫	執行役員	森 郁夫
取締役兼専務執行役員	中坪博之	執行役員	石原 卓
取締役兼専務執行役員	Ⓐ 木俊輔	執行役員	岡崎鎮弘
取 締 役	トロイ A.クラーク	執行役員	湯浅誠治
		執行役員	桜井 智
専務執行役員	中原國⓪	執行役員	石藤秀樹
専務執行役員	伊能喜義	執行役員	望月孝司
専務執行役員	小松 熙	執行役員	デレック C.レック
		執行役員	芹澤洋一
常務執行役員	塚原 穰	執行役員	清水一良
常務執行役員	和仁喜三郎		
常務執行役員	及川博之	常勤監査役	街風武雄
常務執行役員	石丸雅二	常勤監査役	永野正義
常務執行役員	奥原一成	常勤監査役	谷代正毅
常務執行役員	松尾則久	監 査 役	田代守彦
常務執行役員	田村 稔		
常務執行役員	鷲頭正一		
常務執行役員	寺尾俊文		
常務執行役員	石神邦男		
常務執行役員	近藤 潤		

[注1] 印は商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

[注2] 印は商法特例法第18条第1項に定める社外監査役であります。

[株主メモ]

決算期日 3月31日
株主確定日
・定時株主総会 } 3月31日
・利益配当金 }
・中間配当金 9月30日
・その他の基準日 上記のほか、取締役会の決議により
あらかじめ公告する一定の日

定時株主総会 6月中

名義書換代理人

東京都中央区八重洲一丁目2番1号

みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都中央区八重洲一丁目2番1号

みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

[郵便物送付先・電話お問合せ先]

〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-288-324[フリーダイヤル]

同取次所

みずほ信託銀行株式会社 全国各支店

みずほインベスタース証券株式会社 本店および全国各支店

[会社の概要]

社名 富士重工業株式会社
英文社名 FUJI HEAVY INDUSTRIES LTD.
創立 昭和28年7月15日
資本金 1,537億9,527万円
従業員数 13,983名
主要製品 普通・小型自動車、軽自動車、
航空機、汎用エンジン、環境車両
本社 〒160-8316
東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
電話 03-3347-各部署ダイヤル直通
番号案内 03-3347-2111

表紙の写真はスバル B9トライベッカ



PHOTO:スバル R1 R

富士重工業株式会社

〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号

電話 03-3347-2111

(ホームページ) <http://www.fhi.co.jp/>